

講演

2

慢性歯性感染症と全身の健康

～*P. gingivalis*の歯性感染は非アルコール性脂肪性肝炎のリスクファクターである～

演者 高田 隆 先生 広島大学大学院医歯薬保健学研究院 教授

近年、慢性歯性感染とりわけ歯周炎と2型糖尿病、心血管系疾患、早産・低体重児出産、リウマチ性関節炎などの様々な疾患との関係(oral-systemic disease connection)が、明らかにされつつあります。では、どのようなメカニズムで、慢性歯性感染症はこれらの疾患と関係するのでしょうか？

我々の研究室では近年、メタボリック症候群の増加に伴って注目されている非アルコール性脂肪性肝炎(non-alcoholic steatohepatitis; NASH)と慢性歯性感染の関係について検討しています。NASHは、アルコール性肝障害に類似した進展を示すにもかかわらず、アルコールの過剰摂取とは関係なく肝臓に脂肪が蓄積することで生じる肝炎です。我が国では約200万人がNASHに罹患し、そのうち約20万人が肝硬変に移行すると推定されています。

最近、NASHの発生に腸内細菌の関与が指摘され、腸内細菌の除菌がNASHの病態改善に有効であるとの報告がされました。そこで、我々はNASHの発生と進展に慢性歯性感染が影響を及ぼすかどうかについて検討しました。動物実験の結果、代表的な歯周病細菌である*P. gingivalis*の歯性感染によって脂肪化が促進されるとともに、線維化が誘導されることを明らかにしました。また、NASH患者から得られた肝生検材料の約4割に*P. gingivalis*が認められ、*P. gingivalis*陽性例では陰性例に比較して病態が進行していました。このように、*P. gingivalis*の歯性感染はNASHのリスクファクターであることを明らかにしました。さらに、動物実験では、歯科治療によって肝臓における病態の進行が抑制されることも明らかにしつつあります。

講演では、*P. gingivalis*歯性感染がNASHの発生や進行に関与する最新の研究結果をご覧いただきながら、慢性歯性感染症がどのように全身の健康と関係するのかをわかりやすく解説させていただきたいと思います。